



釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

②

中学1年生の時、美術の時に「手」を作った。彫塑との初めての出会いだった。「私

はこれだと思った。これを続

た「遡上」で2度目の会友賞を受賞し、会員になった。

全道展は87年に初出品、初

など違う物を作りたい」と動物や鳥などを題材に半具象の作品も作るようになった。作り始める前に、きちっとしたデッサンを描いたり製図したりせず、心の中にあるものを通じ自分の手を通して形にしている。

「ずっとこの賞がほしかった。特に今年はこの賞を目標

心の中 自分の手で形に

けていきたい」と。

北海道女子短期大学工芸美術科に進み、彫塑を学んだ。

釧美展は、1984年に初出品し初入選。97年に会友になったものの、2002年に退

会した。11年に再度出品し入

賞、翌12年に再び会友。今年、川を上るサケをモチーフにし

12年から再開。14年に奨励賞、

今年「自由にあるき鯛」で佳作賞を受賞した。全国公募

の自由美術展は今年、多くの先生方に勧められ、初めて出

品した2点がともに入選した。

最初の10年くらいは頭部や胸部を作り、その後は「みん

に、やれることを全てやってきた。初の個展の父娘展も開くことができ、本当によい年になった。これからも具象、抽象にこだわらず、自分が作りたいと思うものを作り続けていきたい」と話している。

(黒田文夫)

彫 塑
石橋

ひろこ 周子さん(56)＝釧路市